

令和5年度 岩見沢市立北真小学校

学校評価

自己評価書



I 教職員数・児童数

学校名	岩見沢市立北真小学校							
校長名	野 田 泰 史				教職員数	14名		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	計
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
児童数	12	18	15	15	22	18	4	104
住所	岩見沢市稔町 30 番地 7							
電話	0126-22-5383							
FAX	0126-22-9754							
E-mail	hokushins@edu.hamanasu.com							

II 令和5年度 学校経営方針

1 学校の教育目標

主体的・創造的に生きる北真小の子ども

- ・思いやりのある子ども（豊かな心） 親 愛
- ・よく考え進んで学ぶ子ども（正しい判断力） 公 正
- ・元気でがんばり抜く子ども（強い体とたくましい意志） 剛 毅

2 学校経営の基調

グローバル化や高度情報化の飛躍的進化等、将来の予測がますます難しくなっているが、学校教育においては教育基本法の「教育の目的」を踏まえ、学校教育においては、「人格の完成」と、「平和的で民主的な国家および社会の形成者としての資質」を備えた国民の育成が求められている。

このような中、学校教育では、2040年の社会と、さらにその先の社会を見据え、未来社会の担い手となる子供一人一人の個性の伸長を図り、その可能性を開花させるとともに、子供たちが変化の激しい社会に主体的に向き合い、自らの資質・能力を最大限に発揮して、自己の実現を図るため、たくましく心豊かに生きていく基盤となる「生きる力」の育成が求められている。

新学習指導要領には、育成すべき資質・能力として①「生きて働く知識・技能」の習得、②「未知の状況でも対応できる思考力・判断力・表現力等」の育成、③「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性」の涵養、があげられている。加えて、すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた『令和の日本型学校教育』の構築に向け、真摯に向き合っていかなければならない。学校においては、コミュニケーション力等これらの育成すべき力を確実に育むため、社会と連携・協働した教育活動を推進していかなければならない。

同時に、子供の学力・体力をはじめ、道徳性の基盤となる基本的な生活習慣の育成や、安心・安全な学校・地域づくりに向け、今まで以上に家庭・地域との連携を図り、学校・家庭・地域の三者が意図的、計画的にそれぞれの役割を担いつつ、協働していくことが必要である。

このようなことから、「成果は子供の姿に表れる」の思いのもと、児童の実態や保護者・地域の願い・期待、時代の要請等を真摯に受け止め、教育の使命への自覚と責任、誇り、創意工夫と協働意識を基盤とした専門性の高い組織として、ウェル・ビーイングに向けて人生の根っこを養うために目指す資質・能力を育成する教育活動と、学校を支え、育んできた地域・保護者に信頼される学校経営を進めていく。

3 目指す姿

- (1)目指す子ども像
 - ・ 自分の考えを持つ子ども
 - ・ 自分も人も大切に作る子ども
 - ・ 失敗を恐れずチャレンジする子ども
 - ・ 明朗で心身ともに健康な子ども
- (2)目指す学校像
 - ・ 児童が安心して過ごせる学校
 - ・ 児童の良さを認め、伸ばす学校
 - ・ 保護者や地域が信頼を寄せる学校
 - ・ 教職員が専門性を発揮できる働きがいのある学校
- (3)目指す教職員像
 - ・ 児童の健全な成長を第一に考え行動する教職員
 - ・ 日常授業の改善に努め、専門的な知識と技能の力量を高める教職員
 - ・ 協働を重んじ、組織の一員として積極的に経営参画する教職員
 - ・ 教育公務員としての自覚と責任を持ち行動する教職員

4 経営方針

本校の教育目標の達成を図るため、これまでの教育実践の成果を生かした調和の取れた教育活動を組織的に展開する。また、育成を目指す資質・能力を明確にした教育活動の充実や、複雑化・多様化する学校の課題解決に臨む組織力の向上を目指し、学校づくりに臨みたい。

5 子供たちに育成したい資質・能力

- (1)基礎的な知識や技能
- (2)自分で考えて自己決定できる力
- (3)自分の思い・考えを分かりやすく表現する力
- (4)へこたれない力
- (5)コミュニケーション力

6 本年度の重点

すべての子どもに安心できる居場所のある学校づくり
～温かい笑顔とあいさつあふれる北真小～

- (1)主体的・対話的な授業づくり
- (2)支持的親和的な学級風土づくり
- (3)豊かな心と健康な身体づくり
- (4)信頼される学校づくり

7 具体的な取組

(1)主体的・対話的な授業づくり(日常授業の改善)

①教育課程

- 法令及び学習指導要領の趣旨やねらいに則り、地域の人的・物的特性を生かし、発達段階に即した教育課程の編成、実施、評価、改善のPDCAサイクルによるカリキュラムマネジメントの確立
- 知・徳・体のバランスの取れた指導を保障する授業時数の確保、進行管理

②学習指導

- 主体的・対話的な授業づくり
 - ・明確で前のめりになる学習課題と振り返り(個人内評価)の工夫による主体性の育成
 - ・指導形態の工夫による対話性の育成(ペア、グループなど)
- 統一感ある授業スタイルの確立
 - ・「教えて考えさせる」授業を基盤とした言葉を繋ぐ学び合いの「子どもと創る授業」づくりへ
- 学習スキルの向上
- ICT 機器の有効活用
- 指導の改善に活かす児童の理解度、定着度の的確な把握と学習評価の充実
- 「家庭学習の手引き」の活用や補充的な指導の機会を活用した学習習慣の定着
- 各種調査等の客観的資料分析に基づく改善策の確実な実施
- 解き直し、学び直しの徹底による基礎的・基本的事項の確実な定着

- チャレンジテストの活用
- 児童による授業評価や保護者の感想等を活かした授業改善の推進
- 体験的活動を生かす指導の工夫
- 小中連携による9年間を見通した指導の具体化
- ユニバーサルデザインを意識した授業の構築
- TT、習熟度別、少人数指導の充実と教科担任制を視野に入れた取組

③総合的な学習の時間

- 総合的な学習の時間の趣旨を踏まえ教科等との関連、小中・小中のつながりに留意した指導計画の改善
- 探究的な活動を通し、よりよく問題解決する態度や能力の育成
- 地域の教育資源・人材の積極的活用による「ふるさと教育」等、魅力ある授業づくり

④外国語科・外国語活動

- 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ALTなどとの連携を図った指導体制と指導方法の工夫・改善
- 聞く・読む・話す・書くなど基礎的な力の育成

⑤教科・領域を横断的に指導すべき教育活動

- 学年の発達段階や地域の特色を活かし、人権教育、福祉教育、環境教育、情報教育、プログラミング教育、健康教育、性教育、キャリア教育の推進

⑥研究・研修

- 研究主題に基づき、授業研究に主眼を置いた組織的・計画的な校内研修の充実
- 主体的・対話的な授業づくりに向けた日常の授業改善
- 各教育機関や研修講座などを活用し、専門的な資質向上を目指す自己研修
- 指導主事等の外部講師の活用、他校との連携等、開かれた研修の工夫

(2)支持的親和的な人間関係づくり

①学級経営

- ピア・サポートの実践を通じた支持的親和的な人間関係づくりの推進
- hyperQ-Uテストの分析を活かした意図的・計画的な学級づくりの推進(年2回実施)
- 教師の共感的・肯定的関わりを通じた児童との人間関係の構築・深化
- 児童が達成感、成就感を享受し、自尊感情・自己有用感を高めることができる機会と場の工夫
- 通信の発行、学校行事、PTA活動、家庭訪問、教育相談など、保護者との信頼関係の確立

②特別活動

- 様々な集団活動における自主的・実践的な態度の育成
- 前例踏襲によらない学校行事の改善・評価と内容の充実と自己有用感の醸成
- 集団や人間関係の課題解決のために話し合い、合意形成や意思決定を図り、成就感や集団帰属感を感じ得る自主的な活動の推進
- 互いにコミュニケーションを図り、主体的で望ましい人間関係の確立

③生徒指導

- 情報の交流と課題の共有化など、全教職員の共通理解
- 傾聴・受容・共感に基づく生徒理解
- 納得感のある生徒指導の充実
- 複数体制による指導と「報告・連絡・相談」の徹底
- いじめ防止基本方針に基づき、組織的に進める一貫した指導、対応
- 家庭や地域、関係機関等との連携を図り、適時・適切な対応
- 高いカウンセリング能力を生かした教育相談の充実
- 不登校対策(自尊感情を高める指導、家庭との連携、きめ細やかな教育相談等)

④特別支援教育

- 教育的ニーズに応じた、高い専門性に基づく適切な指導及び支援の充実
- 特別な支援を要する児童の実態に応じた個別の指導計画に基づく効果的な指導
- 全教職員の共通理解を図り、研修の充実
- 校内委員会の計画的な運営と保護者・地域への啓発と関係機関との連携

⑤教室環境

- インクルーシブ教育や合理的配慮の視点を生かした環境整備
- 清掃指導、身の回りの整理整頓、後始末の指導など、落ち着きのある環境づくり
- 豊かな情操と学習意欲を喚起する展示、掲示、教室設営の工夫
- 定期的な学校施設の安全点検と施設・設備の管理、環境衛生の維持改善

(3)豊かな心と健やかな体づくり

①道徳教育(心の教育)

- 全教育活動を通じ、よりよく生きるための道徳性、道徳的実践力を育成
- 特別の教科道徳において、納得解を得る「考え、議論する」道徳授業の充実と授業公開
- 道徳教育推進教師を中心とした、計画・別葉の改善・充実
- 基本的生活習慣の定着
- 関係機関との連携を図り、心に響く指導(生命尊重、いじめ防止など)の充実
- 朝読書や関係機関との連携による読書習慣の形成
- ふるさと教育の充実

②健康安全教育

- 新体力テスト等、客観的資料による児童の運動能力・体力の実態把握に基づく改善策の確実な実施
- 教科体育の充実や遊び等を含む日常的な体力向上の工夫
- 外部機関との連携による食育、性に関する教育や薬物乱用防止、ネットトラブル防止等、健康教育の推進
- 日常的に自己管理のできる保健指導の充実と疾病予防の啓発
- 体育的集会活動の充実(自主的・実践的な態度の育成、最後までやり遂げる取組の推進)
- 警察、PTA、町内会等の関係機関・団体の協力を得ながら進める交通安全指導、防災、防犯教育
- 自他の生命尊重、事故の未然防止等、児童の危険予測・危機回避能力の向上と定期的な施設設備点検、危機管理マニュアルの見直し・更新

(4)信頼される学校づくり

①学校運営

- 学校力向上を目指し、職員の経営参画を促進する協働体制による組織的な学校運営
- 学校改善に直結する学校評価の実施
- 教育公務員として法令遵守と服務規律の厳正な保持、常に危機管理意識を持った職務遂行
- 専門性、人間性、教育に対する情熱に富む教師力の向上
- 公教育の要請の実現(働き方改革を踏まえた意図的・効率的な学校運営、公開研修の開催、道教委や教育局、市教委など主催の研修会への積極的参加等)
- 定期的な学校施設の安全点検と施設・設備の管理、環境衛生の維持改善等、安心・安全の確立

②家庭・地域、関係機関等との連携

- 参観・懇談、学校・学級だより、ブログ等、保護者・地域への積極的できめ細かな情報発信と教育活動の公開
- 学習・読書習慣の定着、基本的生活習慣の定着等、家庭と連携した一体的指導
- 小・小中、幼保との校種間連携の促進を図り、連続性・系統性のある教育活動の推進
- 大学、関係機関・団体との連携、外部人材の積極的活用による教育活動の充実
- 鉄北地区学校運営協議会に向けての取組推進

③事務管理

- 連携・協力を通して的確・迅速に進める事務処理
- 教育課題解決に向けた教育予算の効果的な編成と適正な執行
- 教育活動に必要な教材・教具、施設・設備の充実、保全
- 金銭管理のチェックシステムの構築

8 本校における到達数値目標

- 全国学力・学習状況調査の平均正答率を80以上
- 標準学力検査(NRT)の学力偏差値を50以上
- 家庭学習時間「学年×10分+10分」を80%
- QUテストの学級満足度で満足率70%以上
- 新体力テストで「シャトルラン」を全国平均以上
- 読書を毎日10分以上
- 学校評価保護者アンケート項目すべてで肯定的回答90%以上、Aを60%以上
- 学校評価児童アンケート項目すべてで肯定的回答95%以上、Aを70%以上
- 不登校児童 0人
- いじめを相談する児童 100%

9 経営姿勢

組織は、成長する場であり、状況に応じたしなやかさがなければならない。

- ① 日常的な対話などを通じ、教職員の思いに耳を傾ける。
- ② 納得解を得て、思いの共有を図る。
- ③ 全教職員の協働体制により、思いの実現に向け取り組む。

「成果は、子供の姿に表れる」の思いのもと、目標達成、課題解決に向け、しなやか且つ柔軟に3つの姿勢を持ち、すべての教職員の、理解・納得を得て、学校経営に臨む。

Ⅲ 各種評価結果と改善策

※年間目標数値（A+B=90%以上）を超えた部分を黄色で、特に課題と思われる部分を青で示しています。

1 《児童アンケートの分析と考察》〔対象：3年生以上の児童71名〕

前期（7月） アンケート結果の概要〔回収率100%〕

後期（12月） アンケート結果の概要と考察〔回収率96%〕

NO	評価項目	7月		12月	
		A(%)	A+B(%)	A(%)	A+B(%)
1	学校は楽しいですか。	64.8	95.8	60.3	98.2
2	先生たちや友だちによくあいさつしますか。	59.2	93.0	51.5	95.6
3	掃除や係活動はきちんとできていますか。	77.5	98.6	72.1	95.6
4	ろうかには走らずに歩くなど、けがのないように気をつけていますか。	53.5	91.6	41.2	89.7
5	体育の授業や、体をうごかさず遊びすぎですか。	73.2	95.8	66.2	88.3
6	仲間はすれをつくらないで、友だちとすごしていますか	76.1	95.8	77.9	95.5
7	自分の良さを理解していますか。	29.6	67.6	33.8	69.2
8	授業（勉強）は、わかりやすいですか。	60.6	98.6	58.8	100.0
9	授業中、自分の考えをすすんで発表（ノート・発言・挙手）していますか。	33.8	74.6	29.4	69.1
10	授業中、自分の考えを安心して発表することができますか。	46.5	81.7	32.4	70.6
11	授業中、iPadを積極的に使っていますか。	54.9	85.9	63.2	85.3
12	先生たちはあなたの話を聞いてくれますか。	84.5	100.0	75.0	98.5
13	担任の先生以外にも相談できる先生がいますか。	69.0	93.4	61.8	89.7
14	先生たちは、授業でわからないことがあったら、また後で教えてくれますか。	77.5	100.0	75.0	95.6
15	先生たちは頑張ったことをほめてくれたりアドバイスしてくれたりしますか。	70.4	100.0	72.1	100.0
16	地域のことや、近くの学校のことに興味がありますか。	40.8	73.3	44.1	72.0

*昨年度より、鉄北地区3校の共通項目として以下の設問を追加しました。

7. 自分の良さを理解していますか。
 9. 授業中自分の考えをすすんで表現（ノート・発言・挙手）していますか。
 11. 授業中 iPad を積極的に使っていますか。
 16. 地域のことや、近くの学校のことに興味がありますか。

① 7月の児童アンケートの結果を受けて、鉄北3校の共通項目7、9、11に低い傾向が見られるため、以下の4点を後期の方策として取り組んでいくこととしました。

- 方策1 発達段階に応じた発表スキルを身に付けさせる指導を行う。また、教務係から出される、“NRT（教研式標準学力検査）の分析で明らかにされた課題とその方策”に基づいた指導を継続的に行う。
- 方策2 児童の発言を引き出すことを意識する共に、児童の考えを揺さぶり、自分の考えをもう一度確認する時間を大切にする。また、「考えさせる時間」を十分に確保するなど、児童が自分の考えを持つための時間を保障する。
- 方策3 ICT 機器を有効活用し、自分の考えを他者に伝える活動を繰り返し行っていくことで、発表することに対する自信をつけさせる。
- 方策4 多様な活動や地域人財との協働を大切にし、地域とともに活動を充実させることで、学校・家庭・地域の連携・協働を図っていく。

②12月の児童アンケート結果を受けて、次のように考察しました。

- ・「自分の良さ」「授業中の発表」については、数値では前期よりも低くなっていますが、自ら考え、意欲的主体的に学習する姿や友だちの意見を聞いて学びを深めようとする姿が見られました。ピアサポートの充実、挙手での発表だけではなく、ICTを活用して自分の考えをより表現できるよう工夫をする必要があります。「子どもと創ると教科の特質を生かした授業作り」、「NRTの結果を受けた継続的な指導」、「学びを深める教師の問い返し」、「ICT 機器有効活用」を日々意識し、取組を続けた結果が成果となって現れてきたと考えます。特に ICT の活用は、児童の思考ツールとして、また、発表への意欲に繋がる学習活動として、授業の中での活用が定着してきました。今後は、成長を自分の良さとして認識できるよう、引き続き方策を継続していきます。
- ・来年度においても小・小、小・中の交流の活性化や共通理解により、コミュニティエリアへの興味や意識を高めるよう、第一小学校の1年生との交流や緑中との連携を密にし、共通の課題や方策について探っていきたいと考えています。

2 《保護者アンケートの分析と考察》 [対象：PTA 会員85戸 回収率85%]

(1) 教育活動(1～15)

NO	評価内容(全学年)	今年度		昨年度	
		A (%)	A+B (%)	A (%)	A+B (%)
1	学校は、学校からの便りや懇談会などで、教育目標をわかりやすく伝えている。	52.3	97.6	59.7	98.6
2	学校は、確かな学力を身につけさせるよう努力している。	50.0	96.5	52.8	95.8
3	学校は、いじめのない学級づくりや心の育成の充実に努めている。	37.2	93.0	50.0	94.4
4	学校は、生活のルールやマナーを身につけさせようとしている。	48.8	98.6	56.9	98.6
5	学校は、子どもがよく理解できる授業づくりに努めている。	43.0	95.3	58.3	98.6
6	学校は、家庭学習のやり方を保護者や子どもに伝えている。	36.0	91.8	47.2	94.4
7	学校は、なわとびや持久走などの種目を取り入れて、子どもの体力向上に努めている。	50.0	96.5	56.9	98.6
8	教師は、子どもをほめたり励ましたりして、意欲を引き出している。	43.0	94.2	52.8	95.8
9	教師は、子どものことをよく理解し、相談などに適切に応じている。	37.2	95.3	44.4	91.7
10	子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	38.4	84.9	47.2	79.2
11	子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。	27.9	80.2	34.7	87.5
12	子どもたちは、授業中にiPadを積極的に使っている。	54.7	97.7	58.3	97.2
13	子どもたちは、自分の考えを進んで表現(ノートや発言・挙手)している。	32.6	89.6	33.3	90.3
14	子どもたちは、自分の良さを理解している。	19.8	88.4	20.8	79.2
15	子どもは、地域や学校で気持ちのよい挨拶をする。	39.5	89.5	41.7	87.5

【分析と考察】

- ・授業改善・子どもと創る授業推進など学力向上の取組や、持久走や体育の授業改善など体力向上の取組、当番活動や清掃、学級でルールやマナーなどを大切にする取組が、各種お便りや児童を通じて保護者に伝わっている成果と考えます。今後これらの取組が「わかりやすく楽しい授業」「学校へいく楽しみ」につながっていくよう努力していく必要があると考えます。
- ・いじめなどの問題に素早く対応する学校体制、学期毎に設定している教育相談週間などの取組については次年度以降も継続して取り組んでいきます。

(2) 教育環境（16～18）

No.	評価項目	今年度 A (%)	今年度 A+B (%)	昨年度 A (%)	昨年度 A+B (%)
16	学校の雰囲気がよく、子ども達は生き生きしている。	46.5	97.7	44.4	93.1
17	学校は、清潔で、環境美化に努めている。	53.5	96.5	45.8	91.7
18	学校は、子どもが安全に活動できるように配慮している。	44.2	98.9	52.8	98.6

【分析・考察】

学校で行っている各種感染症対策についても、ご理解、ご協力いただいた表れだと捉えています。今後もこれらの取組を丁寧に継続していきます。

(3) 開かれた学校（19～21）

No.	評価項目	今年度 A (%)	今年度 A+B (%)	昨年度 A (%)	昨年度 A+B (%)
19	学校は、授業参観や行事の場を設け、特色ある教育活動に力を入れている。	46.5	93.0	45.8	95.8
20	学校は、子どもの様子などを保護者や地域に知らせている。	44.2	97.7	55.6	98.6
21	学校は、保護者や地域・関係団体と連携を図っている。	44.2	96.5	45.8	94.4

【分析と考察】

コロナが5類に移行したこともあり、予定されていた授業参観はすべて実施しました。また、運動会や学習発表会は参観者の人数制限をなくし、例年通りの開催となりました。学校での様子を伝える学校だよりや学級通信、案内文書などの発行、学級懇談会や個人懇談会などを通して、保護者の皆様に学校の様子を知っていただくことができました。また、生活科や総合的な学習等で、地域と連携・協働した教育活動等も進めることができました。次年度も引き続き、これらの取組を継続していきます。

(4) 毎日の家庭での取組の様子

No.	家庭での取組	今年度 A (%)	今年度 A+B (%)	昨年度 A (%)	昨年度 A+B (%)
1	朝食の大切さを教え、しっかりとらせるようにしている。	68.6	100.0	77.8	100.0
2	テレビやゲームの時間を決め、守らせている。	7.0	61.7	22.2	72.2
3	生活のリズムを大切に、就寝時刻を決めている。	34.9	86.2	41.7	93.1
4	子どもに家事の役割を分担している。	19.8	53.5	22.2	52.8
5	家庭学習の時間を決めている。	16.3	54.0	15.3	72.2
6	子どもに体を動かすようにすすめている。	44.2	79.1	50.0	84.7

【分析・考察】

- 家庭学習については昨年度と比較して大幅に数値が下がっています。「家庭学習の手引き」の配付や、ご家庭での取組や工夫をうかがったりするなど、家庭との連携をより深めていきます。今後は、緑中学校や第一小学校と連携した「家庭学習強化期間」などの取組もすすめていきます。
- 朝食を摂ることや起床・就寝時刻などは学校生活の基本となる部分ですので、今後ともご家庭でのご協力をお願いいたします。

3 《教職員アンケートの分析と考察》〔対象教職員9名 回収率90%〕

No.	家庭での取組	今年度 A (%)	今年度 A+B (%)	昨年度 A (%)	昨年度 A+B (%)
1	児童が学校生活を楽しめるように工夫していますか。	44.4	100.0	72.7	100.0
2	児童に基本的な生活習慣が定着できるように指導していますか。	66.7	100.0	72.7	90.9
3	児童に適切な清掃活動指導をしていますか。	55.6	100.0	72.7	100.0
4	児童の健康・安全に気を配り、事故が起こらないように配慮していますか。	44.4	100.0	72.7	100.0
5	体力向上を図るために、工夫して指導をしていますか。	22.2	100.0	45.5	100.0
6	いじめ防止に気を配り、児童一人ひとりを大切にしていますか。	77.8	100.0	90.9	100.0
7	子どもたちは、自分のよさを理解していますか。	11.1	100.0	0.0	90.9
8	指導内容や教材の工夫を図って、わかりやすい授業ができるようにしていますか。	33.3	100.0	45.5	100.0
9	自ら進んで課題に取り組む態度の育成に努めていますか。	22.2	100.0	45.5	100.0
10	授業中、安心して発表できる環境作りに努めていますか。	88.9	100.0	63.0	100.0
11	子どもたちは、授業中にiPadを積極的に使っていますか。	66.7	100.0	81.8	100.0
12	児童と接する機会を多くし、児童理解に努め、信頼関係を築いていますか。	66.7	100.0	54.5	100.0
13	安全・生徒指導に対し、全職員が意思統一を図り、適切な対応ができていますか。	33.3	100.0	63.6	100.0
14	基礎基本の定着を図るために、子供に応じた指導をしていますか。	44.4	100.0	81.8	100.0
15	指導に生かすために、計画的な評価に努めていますか。	22.2	100.0	36.4	100.0
16	学校と地域は協力し合っていますか。	44.4	100.0	45.5	100.0

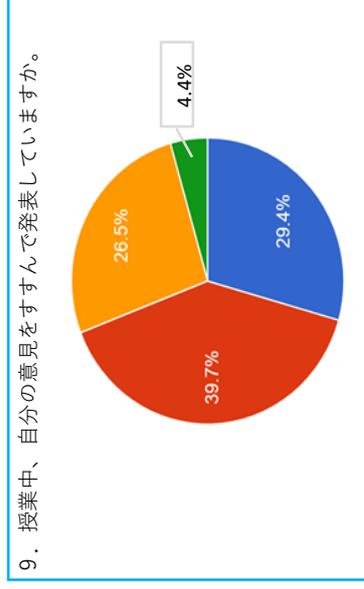
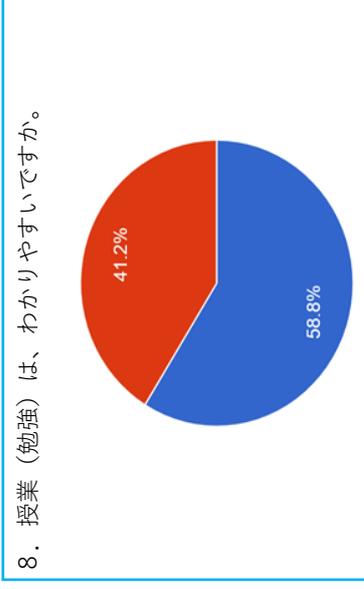
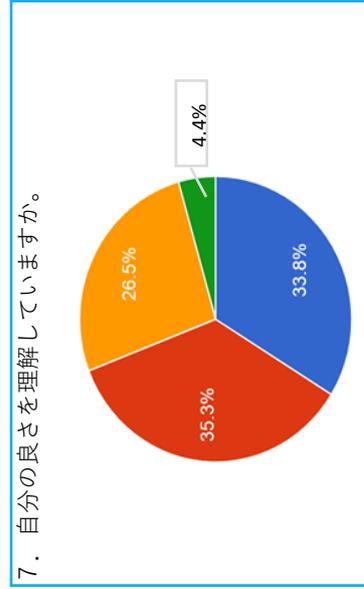
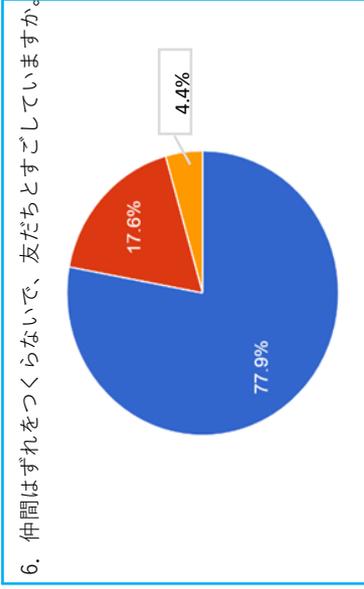
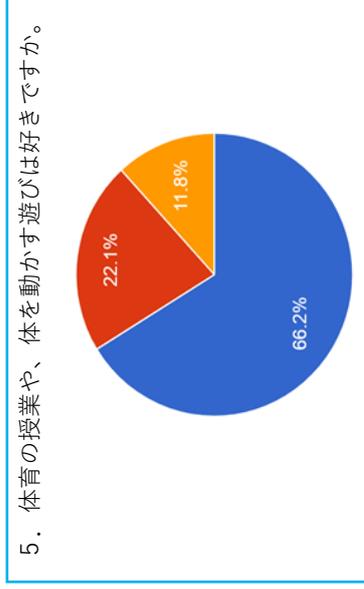
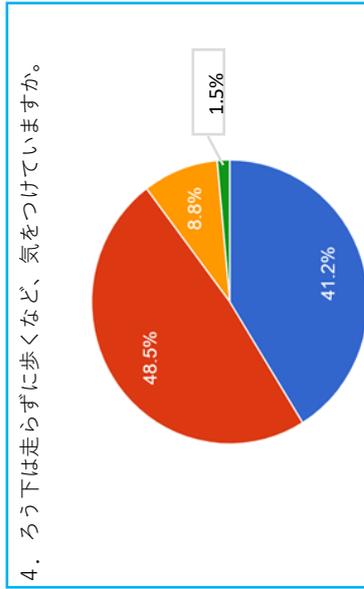
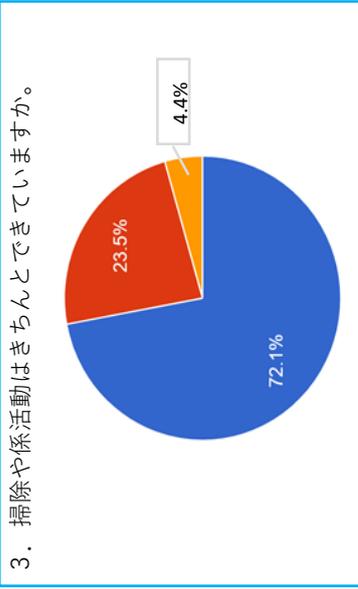
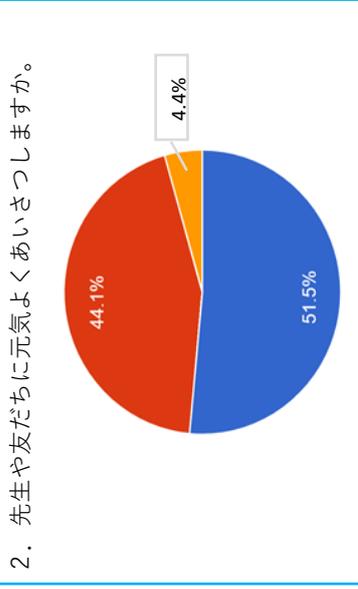
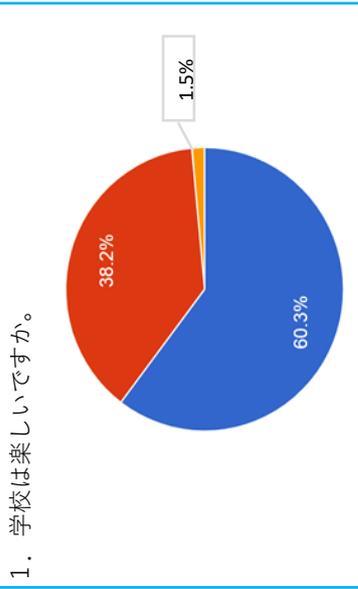
- アンケートからすべての項目においてほぼできているという結果が出ました。しかし、児童・保護者・教職員で、「自分の良さがわかる」「自分の考えをすすんで表現する」「学校が楽しい」「授業がわかりやすい」のアンケート項目で大きく差があることが認められました。今後より一層教育活動の質を高めていくと共に、本校としての具体的な取組を考え、来年度に生かしていけるよう、教職員全体で課題や取組を共有し、更なる改善・向上を目指していきたいと思ひます。

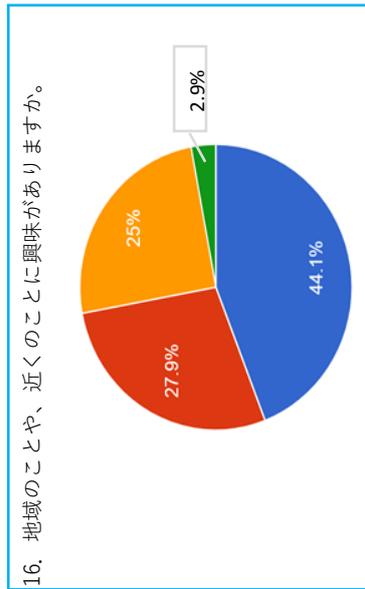
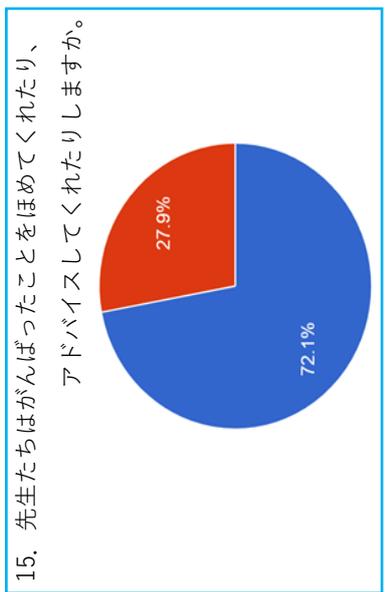
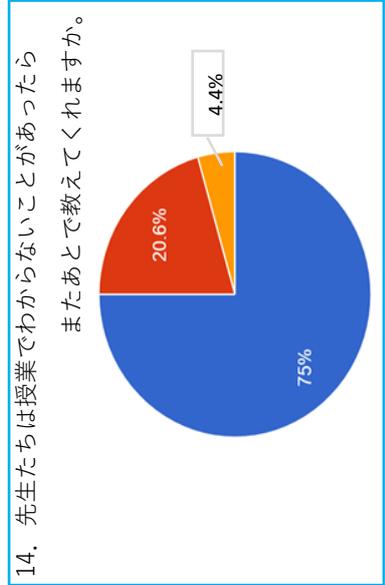
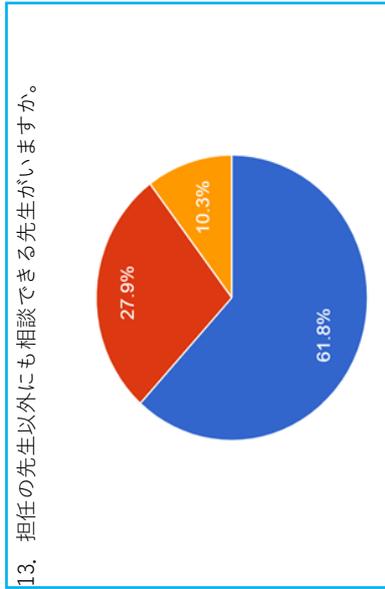
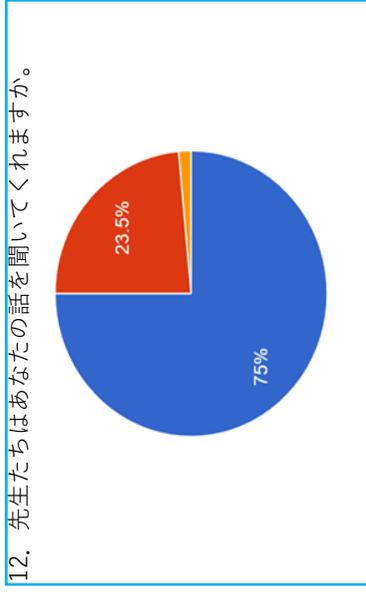
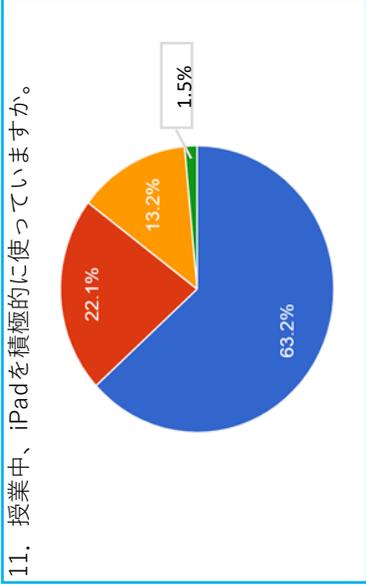
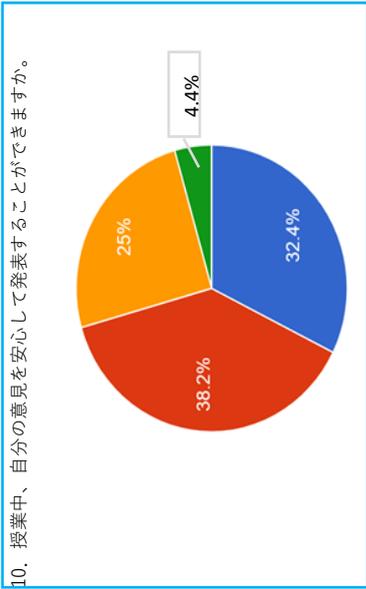
～自由記述欄より～

- 学習の理解に遅れがあり、特に算数が追いついていない様子。家庭での学年を遡って家庭学習をしていますが、なかなか苦手意識をぬぐえません。これまでも先生にサポートしていただき、感謝しています。引き続き、本人への御指導&親へのアドバイスをよろしくお願い致します。
- 風邪などで欠席することが続くと、「学校に行きたい」と泣くほど学校が好きな様子です。その一方で、中学年に入り友だち関係（女子特有なもの）に悩みが出てきている様子です。それは特別なことではなく学校生活で学ぶ大切なことの一つ。気の合う人もいれば、合わない人がいるのは当たり前で合わない人との距離感を家では話しています。その点も含めて3年生は男女仲も良く、誰かが一声かければ公園にはほぼクラスメイト全員集まるくらいの団結があってほほえましいクラスだと思っています。
- 担任の先生と校長先生の考えや対応に日々感謝しております。いつも温かい対応をありがとうございます。
- 今後とも子供達が安全に過ごせる環境作りをお願いいたします。
- 学校の授業がつまらないと言っています。もっと子どもが興味をもてる工夫をしてほしいと思ひます。
- 最近視力がどんどん悪くなっている（姿勢の悪さや読書、TV、スマホなど原因は様々かと思ひますが！）、iPadを使う時にも目が悪くならないよう姿勢や使い方などを指導していただけたら幸いです。（もう指導済みでしたらすみません！）
- マラソン本番の日を参観日にしてほしい。前週末に教えられても仕事で見に行けない。
- 子どもの育成について学校がどう考えているのか全く理解できない。家庭学習のやり方について担任の先生のチェックであったり、やり方であったりについても疑問を感じる。今のやり方になってから子どもがまったくやらなくなりました。今のままこの学校に通わせていて何が子どものためになっているのか本当に理解できません。学校にいる時間で子供達がいろいろなことを学ぶと思ひますが、今の学校生活を続けていて心の成長であったり、勉強面での成長であったりが本当になされているのか正直わかりません。もう少し子供達のことを考えた教育をしていただきたいです。

IV 資料 1. 児童アンケート結果【12月】

● そう思う
● ほぼそう思う
● あまり思わない
● そう思わない

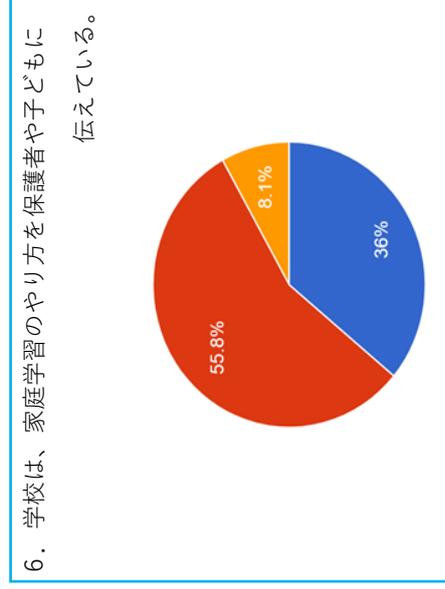
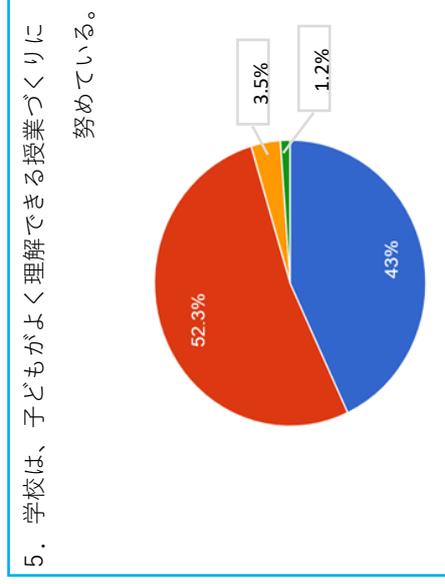
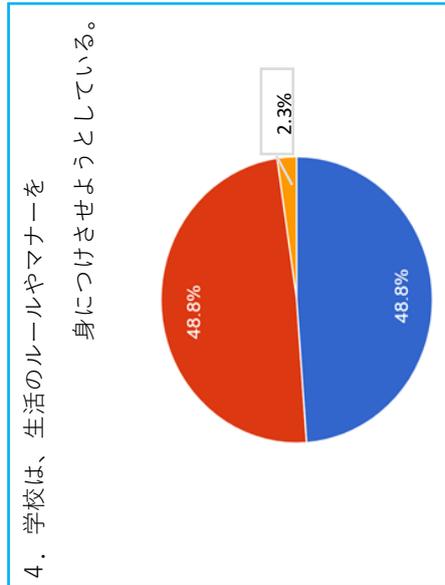
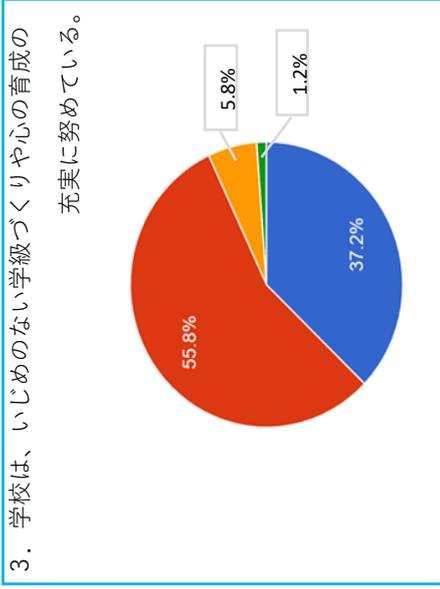
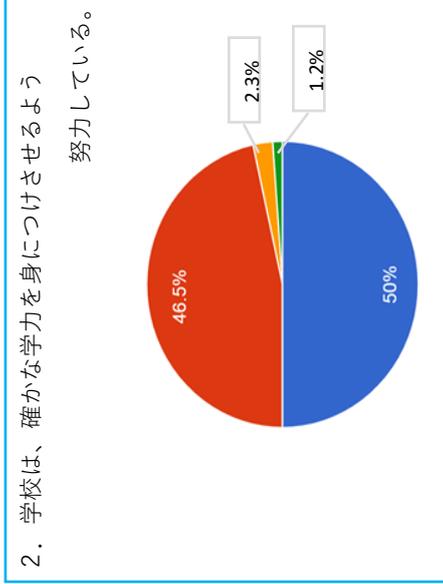
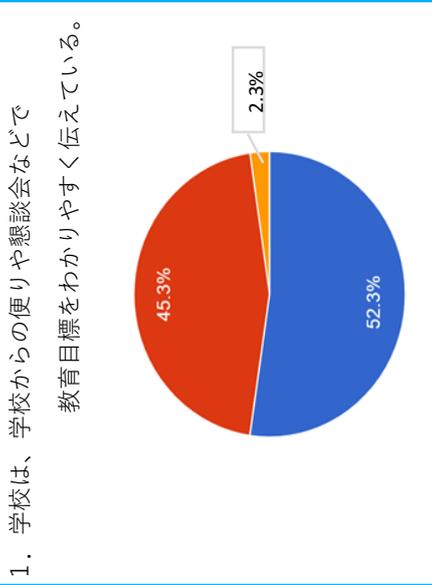


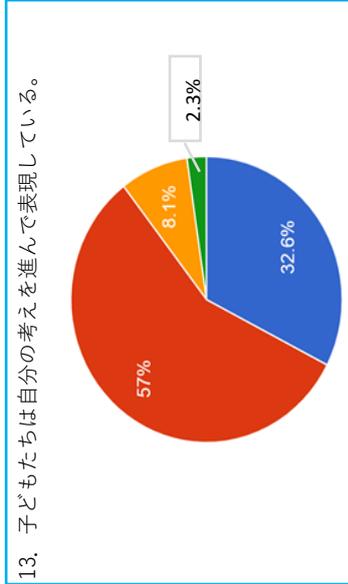
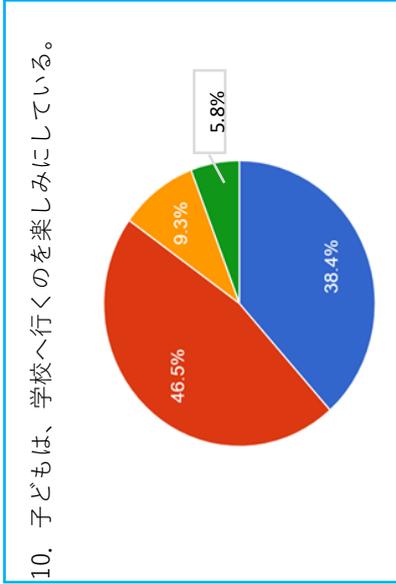
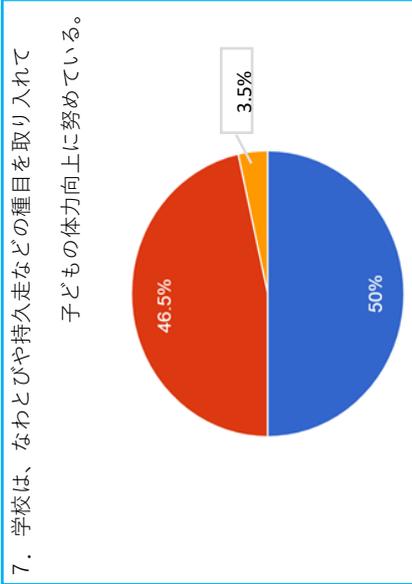


2. 保護者アンケート結果

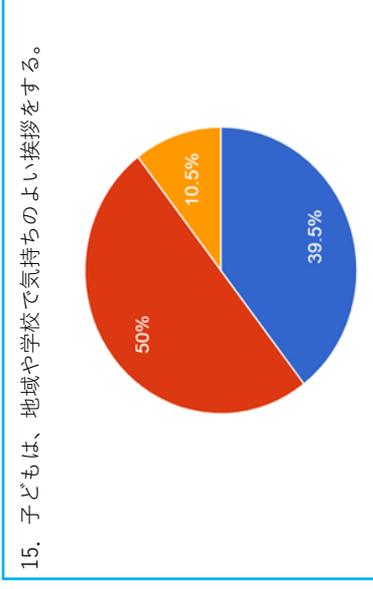
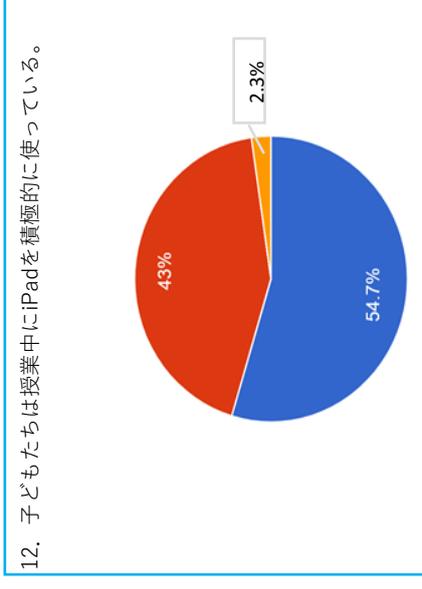
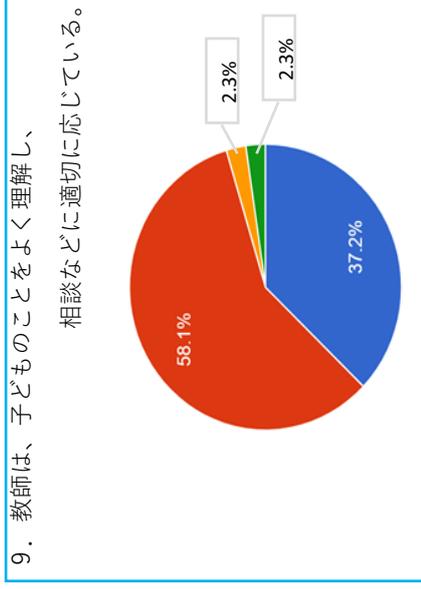
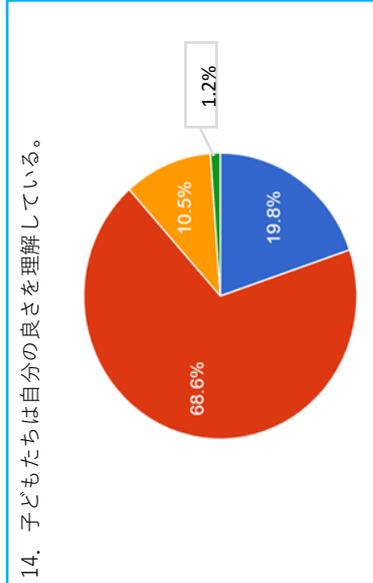
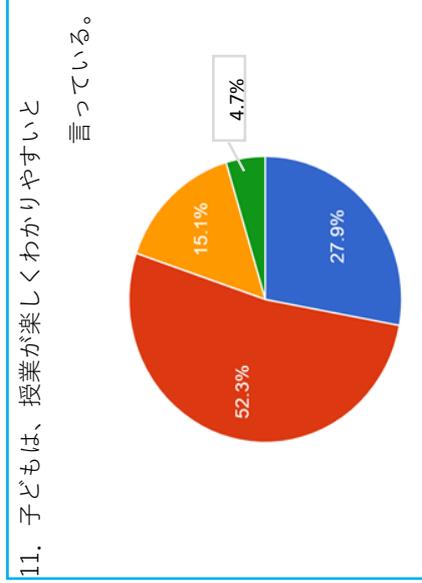
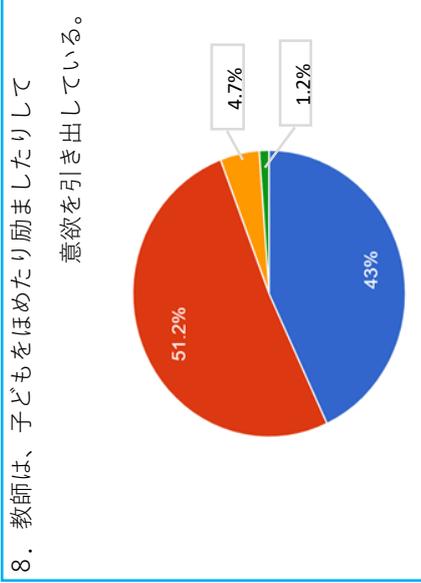
● そう思う
● ほぼそう思う

● あまり思わない
● そう思わない





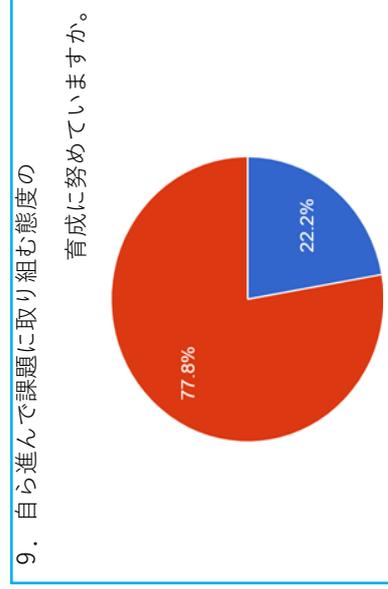
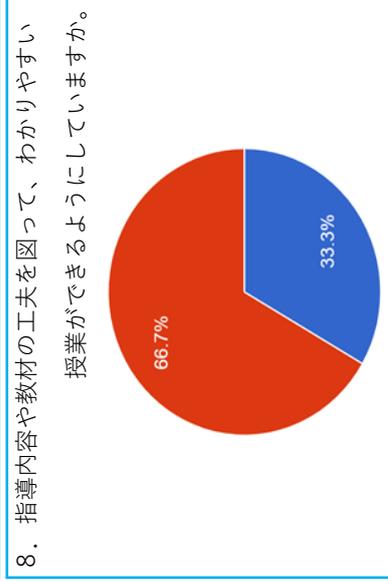
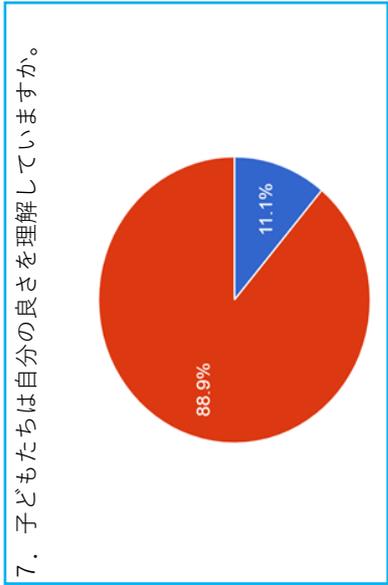
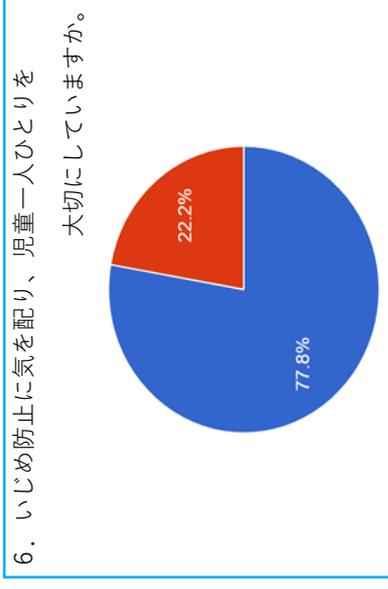
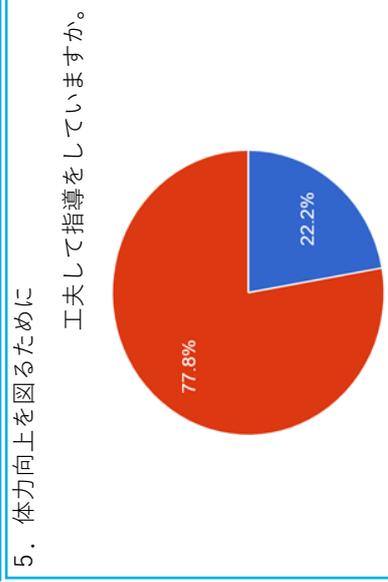
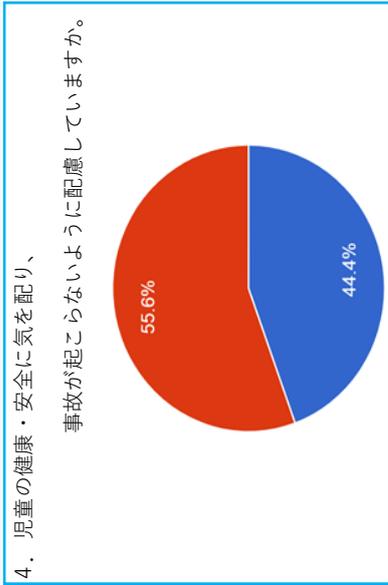
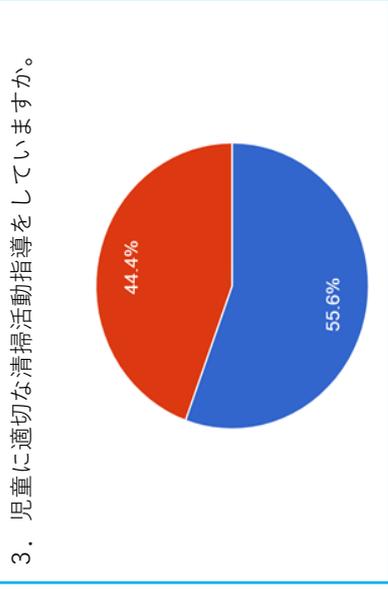
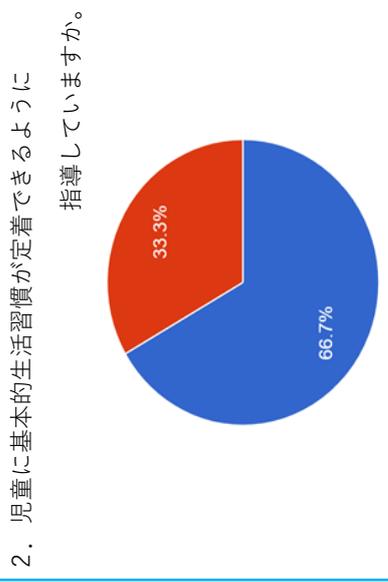
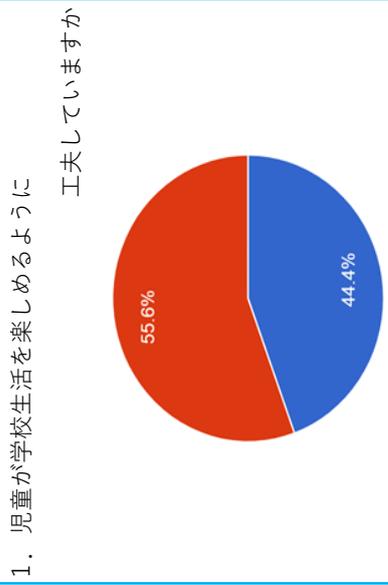
● そう思う
● あまり思わない
● そう思わない
● ほぼそう思う

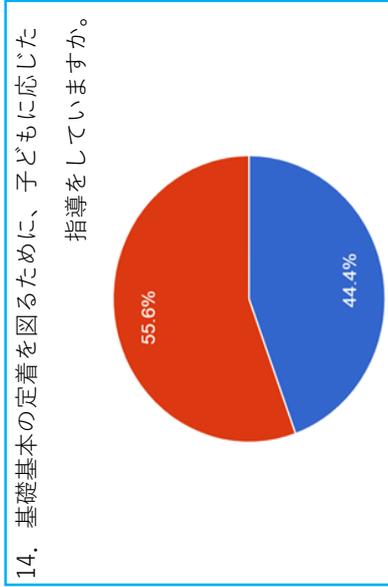
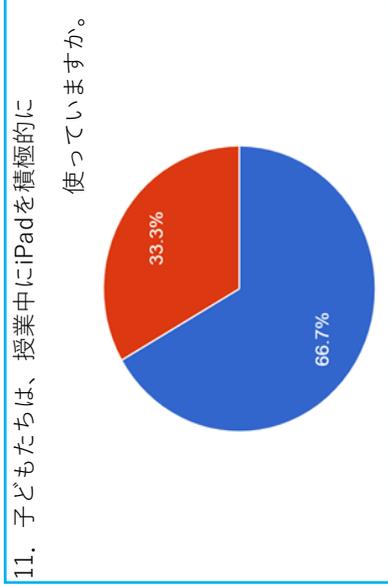
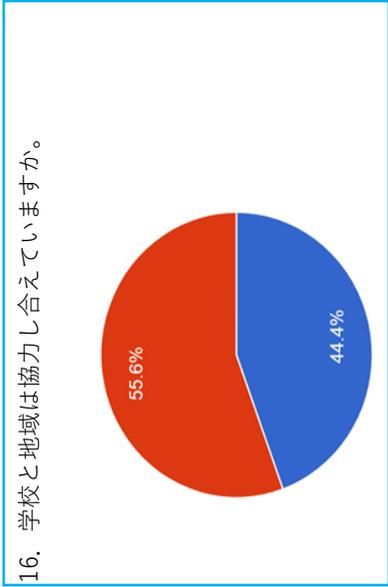
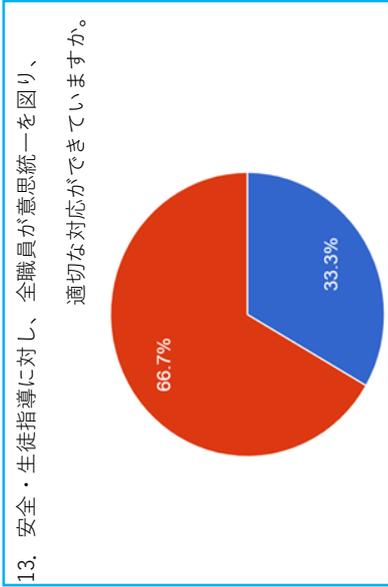
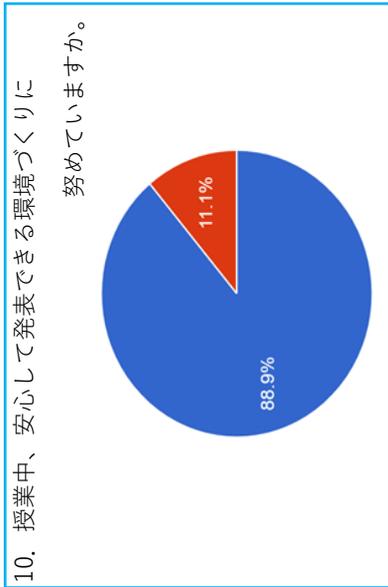


3. 教職員アンケート結果

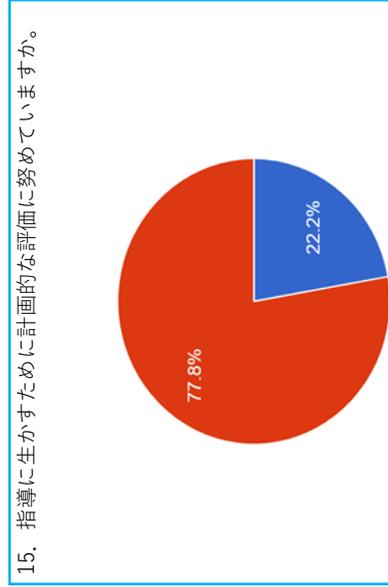
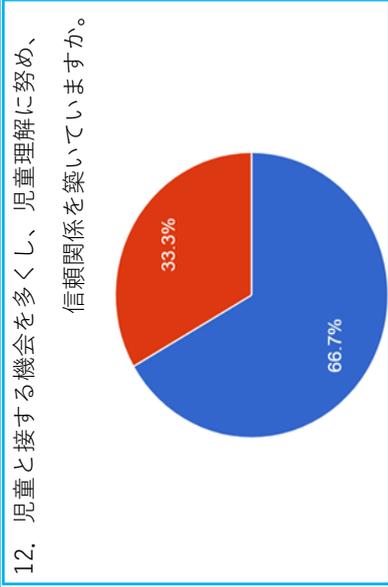
● そう思う
● ほぼそう思う

● あまり思わない
● そう思わない





● そう思う
● あまり思わない
● ほぼそう思う
● そう思わない



A:できている B:ややできている C:やや不十分 D:不十分

- 各評価項目において、上記A～Dで評価をお願いします。当てはまる箇所に○を付けてください。
○お気づきの点がございましたら、自由記述欄に記入をお願いします。

評価項目	A	B	C	D
1 自己評価結果の内容が適切かどうか。	4			

自由記述・改善の方向

- ・教員アンケートのA評価を50%以上にする。これは教員に自信をつけさせることです。頑張ってください。
- ・児童たち又は児童個人で行動する場合、自ら状況判断し、危険を回避する能力が必要。また、その実践教育・指導が必要。

評価項目	A	B	C	D
2 自己評価の結果を踏まえた今後の方策が適切かどうか。	3	1		

自由記述・改善の方向

評価項目	A	B	C	D
3 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。	4			

自由記述・改善の方向

評価項目	A	B	C	D
4 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか。	4			

自由記述・改善の方向

- ・学校が楽しいと答えなかった子どものケアをお願いします。

評価項目	A	B	C	D
5 評価結果の集計や分析の仕方、情報公開等が適切に行われているかどうか。	4			

自由記述・改善の方向